

過去の審議会において意見のあった次期計画策定に向けての課題など

令和3年度 第1回

- ・女性が0人の職場はなくすべき。
- ・まずは副課長級の女性を増やす必要がある。
- ・デートDV対策を進めてほしい。

令和3年度 第2回

- ・5年に1度の意識調査の結果を計画の目標としてよいのか。
(計画の期間と意識調査の実施年度がずれているため)

令和4年度 第1回

- ・規則や要綱等により設置された懇談会や庁内プロジェクト会議についても、女性委員の登用状況について議論が必要になる。次期計画では見直してほしい。
- ・委員全員が女性という審議会も性別による偏りがある。男女がランダムに参画しているのが望ましい。
- ・女性委員の登用促進について、女性が全くいない審議会を無くすことを目標に据えても良い。
- ・デートDVの予防啓発が課題だと考えている。デートDVの知識を普及させることで、将来のDV防止にもつながる。
- ・避難所で女性に対する暴力が生じないように、万全の対策が必要。

令和4年度 第3回

- ・それぞれの事業を担う職員の意識啓発を続けてほしい。

令和5年度 第1回

- ・女性の比率を上げようと言いながら、一方で、どちらの性にも属さない人も尊重していかなければならない。基本計画の目標値にも関わるため、その基本計画を立てる段階での目標の設定の仕方を検討する必要がある。
- ・庁内プロジェクトの女性比率が少ないことについて、例えばオブザーバー的に女性が参加できるようにするなど、審議会は難しくても庁内プロジェクトであればやり方によって改善できる可能性がある。

令和5年度 第2回

- ・暴力の問題、LGBTの問題に目が行き過ぎていて、根本が忘れ去られている。男女共同参画の意識があるから、暴力の根絶にも、性的マイノリティの方への視点にも繋がっていくので、根本のところをしっかりとっていただきたい。
- ・目標は立てるが、数合わせをしたいわけではなく、一定の数の人たちが見える

形で活躍することによって、お互いが協力し合って社会を変えられる、と示すことが大事。

- デートDV防止啓発について若い層への働きかけは大切。実際にそれが生徒にどのくらい渡っているかを把握するために、残部等の調査をするとより良い。
- 地域活動の場についての平等感を見ていくと、「平等になっている」が34.4%で、「どちらかというとなりの地位が高い」が35.7%とあるが、PTA活動やこどもの行事の参加では、ほとんど「主として女性が行っている」である。女性がたくさん参加して活動しているから平等だという意識になっている人がたくさんいるのではないか。「男性がトップに立つ、女性はそれを支える」という男女の役割分担は共同参画ではなく、『性別に全く関わらず自分のやりたいことに参加できる』ことが本当の平等ということが、地域では浸透していない。こういう意識に対してもう少し切り込んで、政策に反映していただきたい。
- 多様性の問題などを考えたときに、今後は「否定する人」よりも、それを「重要視しない人」の割合を増やすこととなるのではないか。多様な考えの中には、自分は従来通りの男らしい生き方をしたい、女らしい生き方をしたい、と思う人もいて、その考え方を否定してはいけない。否定すべきは、その考え方を重要なものだと思って誰かに押し付けること。色々な意味で価値観を少し変えていく、見方も変えていくことが、そろそろ大事ではないか。
- 男女共同参画などの文脈で女性差別や女性に対する偏見を語るときに女性に対する偏見を持っているのは男性であると考えがちだが、女性に対する偏見は女性にもある。そこを考えてジェンダー平等政策をしていかねばならない。
- 女性が職業を持ち続けるために必要なこととして、「パートナーや家族の理解と家事・育児などへの参加・協力」について、男女の意識に圧倒的な差がある。夫婦の意識が違えば結果、PTAは妻が担うことになり、その結果、男性は少なくてトップだけになる。

令和6年度 第1回

- 専門性が理由で女性が登用されていないということ、これが現実である。その一方で専門性があるため女性がいけないという理由を公開することにより、やっぱり男の仕事なんだ、女の仕事なんだというイメージを与えてしまうという点を少し危惧している。こういったところの記載方法も、今後考えていけるといい。資料を確認していて、この部門は仕方ないと思ってしまうようなイメージをできるだけ与えないような記載の仕方を考えていけたらよいと思う。
- 各部署の男女比が半々の構成になっているのかどうか、男女比の構成が半々でないならば、そこから昇任していく職員の男女比にも差が出てしまう。そして結果として女性比率といったところに影響が出てくる。今すぐというよりも、時間がある時に充て職という理由がついてくる部署における男女の職員比率などが全体の女性比率などに影響が出てくるのかどうか評価できるとよい。